

EIZO株式会社とEIZOメディカルソリューションズは、第37回医療情報学連合大会にて、ランチョンセミナーを共催します。「院内システムの水平統合環境」、「医用画像モニタ管理」について、一緒に考えてみませんか？

ランチョンセミナー 13

日時 11月23日(木・祝) 11:30～12:30

会場 F会場(グランキューブ大阪10階・会議室1004+1005)

参加 ランチョンセミナーの整理券を23日の8:45からグランキューブ大阪10階で配布します。数に限りがあるため、無くなり次第終了となりますのでご了承ください。参加は第37回医療情報学連合大会参加者に限ります。

座長 山本 勇一郎 先生 大阪大学大学院 医学系研究科 情報統合医学 医療情報学

演題 1

病院情報システムの水平統合環境における運用マネジメント

島川 龍載 先生

広島赤十字・原爆病院
経営企画課 経営戦略室



病院情報システムは、医療業務で必要とする高い専門性や取り扱う情報の機微性、さらには医療制度下における厳格な運用管理体制の構築などが必要とされるため、利用者が実際に操作するアプリケーションのユーザビリティを優先して導入され、システムベンダーに依存したインフラ環境が提供されることが多かった。

これらの状況から、複数のシステムが密結合となっている環境下において、管理する情報システム担当者が構築内容を把握し、適切な運用管理を行うことは多大な労力が必要であったと言える。

上記の解決のために、レイヤー毎に水平統合した環境を構築し、集約・可視化することで、最適な運用マネジメントが確立できるとともに、リソースの有効活用を効率的に行い、病院経営や医療の質向上などに寄与することが可能になると考えている。

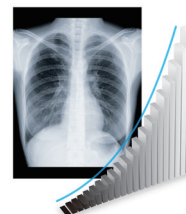
今回は、広島赤十字・原爆病院で構築した水平統合環境の稼働から見てきた運用マネジメントにおける取り組みについて考察する。

演題 2

医用画像モニタ管理の実際

原瀬 正敏 先生

豊橋市民病院
医療情報課



医療施設では、様々なモニタが多く使用されている。特に医用画像モニタは、医師が画像を見て最終決定を行う重要な機器である。米国、欧州では、医用画像モニタ単体として医療機器として販売されているが、国内では医療機器として取り扱われていない。

一方、モニタ診断を運用している施設では、医用画像モニタの劣化に気づかず使用されていたなどのヒヤリハットを経験した報告がある。最適な表示を得るには、解像度や階調特性などのモニタ特性を理解し、性能を維持するための定期的な管理が必要である。

日本画像システム工業会より発行されている「医用画像表示用モニタの品質管理に関するガイドライン(JESRA X-0093)」は、国内唯一の医用画像モニタ管理のガイドラインであり、これに沿った管理は最低限必要である。

本セミナーではガイドラインを交えながら、当院の医用画像モニタ管理とその効果について、医療情報部の視点から述べていく。

企業展示

企業展示エリアにて、システム基盤の水平統合化により、部門単位のシステム構築による管理の煩雑さやコストの無駄を省き、統制のとれたシステム環境構築を提案します。

また、超高解像度8メガピクセル対応31.1型カラーモニタ「RadiForce MX315W」と共に、モニタ品質管理システム「RadiNET Pro」のデモンストレーションを行います。

